

令和4年度 第2回 函南町立図書館協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年3月22日(水) 午後3時～午後4時
- 2 会 場 かなみ知恵の和館 1階 多目的室
- 3 出 席 者 委員 土屋 貴俊 学校教育関係者
委員 石田 和久 学識経験者
委員 富永 和彦 社会教育関係者
委員 佐藤 泰博 社会教育関係者
委員 稲葉 優子 家庭教育活動者
委員 杉山 恵子 学識経験者
委員 川口 朋子 学校教育関係者
事務局 飯島 美貴 生涯学習課課長
木代 和美 函南町立図書館館長 (生涯学習課課長補佐)
牧野 満枝 生涯学習課主事(図書館)

4 公開・非公開の別 公 開

5 傍聴人の数 無 し

6 内 容

(1) 開会

(2) あいさつ 飯島生涯学習課長

(3) 報告事項

① 令和4年度事業報告

- ・令和4年度図書館利用状況について
- ・令和4年度事業報告について
- ・令和4年度蔵書点検結果について
- ・新型コロナウイルス感染症対策の対応について
- ・図書館システム更新について

上記について、会議資料により事務局から報告

各委員から出されたご意見等

- 会長 事業報告については、内容が多岐にわたっており、細部まで配慮されている。特にコロナウイルス感染症対策が緩和される中、工夫して行っていると感じた。
- 委員 今年度は、図書館において中学生の職場体験を受け入れてもらうことができた。コロナ禍の中、ここ数年間は実施できなかった。対象が2年生だったが、校長先生からも体験を通して子ども達が成長し落ち着いたと聞いている。今後とも継続して行って欲しい。
協議会で事業報告を受けるたびに感じているが、素晴らしい事業が増えている。若者向けの事業が充実してきている。来年度から、中学生の下校時間が、午後4時30分になる。全ての子供が下校後の時間に部活動に代わる予定があるわけではないので、図書館を上手に活用して欲しいと思っている。図書館も今後も子どもたちに向けた事業に取り組んで欲しい。
- 会長 中学生の学校での生活時間帯が変わってくる。上手に図書館で受け入れて欲しい。
- 事務局 図書館では、放課後の子供たちの居場所としても活用できるように受け入れていきたい。また、放課後の時間を利用した事業も取り入れていきたい。
- 委員 毎回会議に出席するたびに感じているが、文化協会にもかなりの人数の会員がいるが、これだけ多岐にわたった事業はやることができない。図書館がこれだけの事業を行うことで、職員に負担がかかってはいけないので、楽しく無理をしないで活動を続けて欲しい。
- 委員 今年度の幼稚園・保育園図書館見学会は、2回参加する園があったほど盛況になった。この事業の初年度は、幼稚園親子から始めてその後保育園親子に広げていったと記憶している。現在保育園は、親子で図書館に来ているのか？
- 事務局 事業を始めた頃は、親子で図書館に来ていただいていた。しかし、ここ数年はコロナ禍であり蜜を防ぐために、子ども達だけの参加にしている。
- 委員 社会教育においては、幼保、小・中学校とは接触機会があるが、高等学校とはあまり接触機会が無い。ところが図書館では、県立三島南高校と田方農業高校と連携した事業を行っている。高等学校のどこを窓口として行っているのか？
- 事務局 大きな事業を実施するときには、校長先生の所に事業協力の依頼に出向いている。いつも快く了承していただけている。事業の細部の打ち合わせ等は、図書課長の先生、事業担当の先生と行っている。高校でも地域に開かれた高校、また地域に出ていくという課題を持っているので、快く協力を得られている。
- 委員 どの町でも高校生との接触がない。図書館で行っていることはキャリア教育の観点からも良いことだと思う。
- 会長 高校との連携では、最初三島南高校と連携事業を行っていたと記憶する。その後、田方農業高校との連携が始まったと思うが、田方農業高校との連携の経緯は何か。
- 事務局 おっしゃるとおり、最初は近隣にある三島南高校と連携した事業を行っていたが、せつかく町内に特色ある県立高校があるので、連携事業を行いたいと、企画を持って校長先生にお願いに行ったら、快く受けてくださり始まった。
- 委員 高校の職場体験も受け入れているのか。

- 事務局 いままでコロナ禍でできなかった職場体験も受け入れを始めた。本年度は、函南中学校、東中学校、田方農業高校の生徒を受け入れた。
- 委員 幼稚園では、図書館見学会に継続して参加している。毎年、年長児を対象として実施してくれているので、循環よく参加できている。コロナ禍前は親子の参加となっていて、現在は蜜を避けるために年長児のみの参加になっている。しかし、子ども達は子供たちだけでもしっかりおはなしも聞くことができるし、好きな本も自分で選び、自動貸し出し機で本を借りることができる。保護者がいなくても一人の力でもできるということが子供にとって自信にもなっている。また、家に帰ってから保護者に話して聞かせるという楽しみもある。子供から図書館のことを親に発信する良い機会になっている。今後も継続願いたい。
- 委員 テーマ貸出については、園にある本は少ないので、子ども達にとっても先生にとっても、たくさんの園にはない本を読むことができ、大変良い事業だと思っている。また、図書館から借りた本だから大切にしようという気持ちも育っている。自分では今まで手に取らなかった本を友達と一緒に読む機会にもなっている。子供たちの成長にとって、とても良い事業なので今後もお願いしたい。
- 事務局 リサイクル市については、自分も図書館に来館した折に見たが大変賑わっていて良かった。また、子ども達の本がないなと思っていたが、子供用の絵本や本は、幼稚園・保育園、小・中学校に配布すると聞いて、有効に再利用されていて良いことだと思った。残った本はどうなるのか？
- 事務局 リサイクル市当日に残った本は、少なくなったが現在2階にスペースを設けて配布している。
- 会長 自分で本を選んで自分で借りるという体験や機会を作ることは、子どもの成長に大変良い。今後も継続されることを望む。
- 委員 園長からお話があったが、幼稚園・保育園の子供たちが本に接する機会を持つことができ、本に親しむのは大変良い。小学校では1・2年生は絵本が好きで図書室に通う子供も多い。しかし学年が進むうちにだんだんと本から離れていってしまう。学校評価のアンケートでも「本に親しんでいるか？」の項目が若干低くなっている。貸出冊数は変化がないのに、本に親しんでいるという子どもが少なくなっていることは、課題だと感じている。来年函南スタンダードでは、「本に親しむ」から「本を楽しむ」になる。幼稚園・保育園で本が好きになり、小学校の間に自分で好きな本を探せることができるようになる。図書館利用が、中・高では勉強利用になっても、また卒業して図書館に戻ってくる子ども達になると思う。
- 委員 探求学習としてタブレットを使うインターネットでの調べ学習が多くなった。しかし、子どもにとってはインターネットは情報量が多すぎてまとめることが大変だったようだ。小・中学生にとっては、書物を利用した調べ学習の方があっているのではないかと感じている。学校では、今後も図書館の書物を利用した調べ学習も充実させていきたい。
- 委員 ロイロノートについては、便利なようで扱いに時間がかかっている。今まで手書きなら簡単にノートを出して記入できたものが、タブレットを出して電源を入れ、写真をとって、入力もすることは大変である。たくさん読んでいても記録しない子供が多い。本に親しむ、楽しむことにおいて、負担となっているのはよくない。今後学校の方でも改善できたらと思っている。幼稚園の段階で子供たちが本好きになっているので、そのまま小・中学校でも本好きな子どもを育てていきたいと思うのでご協力願いたい。
- 会長 園長、校長の話し合いの場もあるので、上手につなげていくと良いと思う。ロイロノートについては、子どもの視点に立って今後どうするのか、ということを考えて取り組んでいくと良いのではないかと。

- 委員 ボランティア団体の表彰については、大変うれしいことだと思う。他の団体にとっても励みになる。最近はやっと子供たちの前で読み聞かせもできるようになってきた。このまま顔の表情を見せながらのボランティア活動が、継続できると良いと思っている。
- 会長 コロナも収まり事業が拡大されてきている。無理せずボランティア活動を続けていって欲しい。

(6) 協議事項

① 令和5年度事業計画（案）について

- ・ かなみ知恵の和館ロゴマークの募集について

上記について事務局から説明

各委員から出されたご意見

- 会長 新年度事業の細部説明については、新年度の協議会での説明することである。来年度は、知恵の和館10周年、町も60周年になる。その節目としてロゴマークを募集して今後活用していくということである。審査員をお願いしたいとのことだが、よろしいか。
- 委員 委員も応募ができるのか？賞品はあるのか？
- 事務局 もちろん委員の皆さんも応募できる。また、賞品は考えていない。
- 委員 対象は、町民だけか？広報やホームページにも掲載するのか？
- 事務局 対象は、町民だけではなく、どなたでも大丈夫である。広報、町と図書館ホームページでもお知らせする。
- 委員 開館時、知恵の和館の名前も公募して大変盛り上がりを見せた。函南図書館は注目されているので、ロゴマークも良いことだと思う。有効に利用してもらいたい。
- 会長 どのように利用していくのか。
- 事務局 封筒にスタンプを押印したり、お便りやちらし、職員の名札に使用するなど幅広く利用していく。図書館はあまりないが子育ての方では、お便りを送付することが多く、役場の封筒だと開けてもらいづらいが、知恵の和館子育てからのお便りだとわかると良いということからも提案された。
- 会長 上手に利用し広めていって欲しい。
- 委員 「子供が来なくなる図書館」は、充実し成果がでてきている。以前から提案していた「お年寄りがきたくなる図書館」にして欲しいというものだが、館内の本の特集展示が良い。去年は「鎌倉殿の13人」の特集展示を行っていた。今年度は、「徳川家康」や「推理小説」の特集展示を行っている。この特集展示コーナーは、私を含めて何の本を選んだらよいか悩んでいる人たちにとって、大変良い。
また、ボランティア団体が表彰されたが、このボランティア団体が子供たちだけでなく、お年寄りの所にも出向いて活動している。まさに図書館とボランティアが一緒になり「お年寄りが来なくなる図書館」を実現させている。
- 会長 委員の任期は、今年度までとなっている。来年度は、また新たにお願いでいくということによいか。
- 事務局 来年度改めてお願いしていくことになる。ご協力よろしくお願ひしたい

(7) 閉会